



題です。
私自身は、京都の生まれ育ちで、今も京都に住んでおりまして、基本的には京都を題材にしてお話をさせていただきます。
さて何やらややこしいような資料がいろいろ並んでいます。こういう機会ですので、ご覧いただいて、またお持ち帰りいただいて、ひもといっていたらよいのではないかと思います。思っただけでいいです。

京都という地域を、つまり、現にそこに人が生き、暮らして、生まれ、死んでいく、人と密着した関係のある地域というものを京都という形で定めて具体的に考えてみたいと思います。
京都のことをそんなに「存じない方」も当然いらっしゃると思いますが、これが現在の京都府の全体図です。いわゆる平成大合併によって消えた地名も結構あります。

海というのとは日本を例にとつて言う、日本という国と日本でない国とを隔てる国境線という形で認識されることが多いと思います。これは日本だけの特殊性でもないと思います。ヨーロッパなどでも国境線は、しょっちゅう歴史の中で動いていることはご承知のとおりです。日本は海が海であり、その海が国境になっているから、海を越えて向こうへ行く、海を越えて向こうから来るということに大きな決心が必要のように思われます。国

回海は地域を結ぶ回廊だった

す。消える前の地域がそれぞれ独自の名前で市町村を名乗っている、その時代の地図をわざと使っております。
普通、京都として多くの人が認識するのは、地図の右下辺りにある京都市です。しかし、京都府にまで「京都」の範囲を広げると、その北は海に面しております。京都に海というのは違和感を持たれるのですが、日本の古代の歴史を考えると非常に大切なこと

境を越えるための国家と国家との煩雑な手続きが現に存在します。
しかし、国境というものはいつできたのか。地球上それぞれの地域や大陸に、最初から国家があるわけではありません。歴史を刻んでいく中で国家というものができ、そして、その国家が自らの国家を他の国家と区別するために国境を作ることになります。
日本列島に当てはめると、国境ができるのはずっと後の時代です。渡来人が問題となる千五百年前には、国境などというものはありません。日本に「国」がなかったかという感じがします。日本は当時国際的には倭国と呼ばれ、「倭」というのが日本の古い時代の名称です。これは日本が付けたものではなく、中国のほうで日本列島の国家をそう捉えていました。
ともかく日本列島を取り巻く海は、現在の我々には国境として認識されています。
その国境はいつできたのか明確には言えませんが、国境ができるまでは人は自由に移動します。日本列島と、朝鮮半島や中国大陸との間

渡来人と古代日本 環日本海文化圏をめぐる

講演要旨

井上満郎先生

(京都産業大学名誉教授・高麗美術館館長)
2024年11月16日 大阪私学会館

回古代を通して現代を考える

私は大学の現職を引いて十四年たちます。久しぶりに皆さま方のような若い方を前にお話することになりますので、皆さまの感性とひよとして合わないこともあるかもしれません、その辺のところは見逃していただきたいと思います。

皆さま方に関わるような形でお話できるとすれば、このタイトルだろうと思います。今日のテーマを「渡来人と古代日本」といたしました。今までこの会でお話しになっておられる方の話は、それぞれに現代に関わる、つまりは今を生きる皆さま方の身体骨髄に直接に触れるようなお話が多いのですが、私の話は古代ということになります。今から千五百年も前のことです。
ですから、今を生きておられる皆さま方にとって千五百年前の歴史が関係するのかもしれないけれども、歴史というものは何年たっても当然のことながら現在に必ず受け継がれている。どのような形で受け継がれているかはそれぞれ

違いがありますけれども、歴史というのとはそういうものです。単に過去にどんなことが起こったか、誰が生きていたか、どんなことが行われたのかといったことではなく、現在の我々、皆さま方が、自分たちの現在、現代を考えていただく上に非常に大きな、ヒントと言うとちょっと言い過ぎですが、考えなければならぬ課題と申してよいかなと思います。「歴史問題」という言葉もよく使われますが、歴史はすなわち現代のこととして、そういう観点で、今日は渡来人と古代日本について考えてみます。

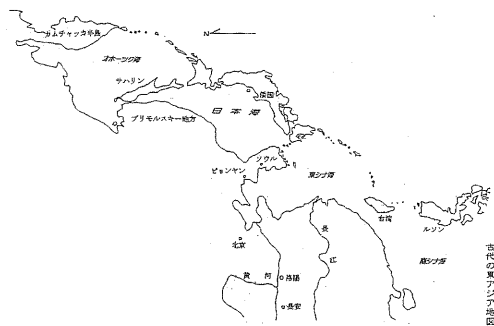
副題に「環日本海文化圏をめぐる」としました。「日本海」という言葉が若干の問題をはらんでいることは重々承知しております。「東海」という呼び方を韓国・朝鮮では使っていると聞いておりますが、日本には「東海」という言葉は既に歴然たる意味を持って千数百年にわたって使われております。例えば名古屋近辺を東海地方と言いますし、東海道本線、東海道五十三次というように、日本列島にとって東にある海、今で言えば太平洋を

指しているものとして定着しておりますので、今日のお話でも「日本海」あるいは「環日本海」という言葉を使わせていただきます。他意は全くありませんのでそのままだにお聞きいただきたいと思います。
日本の中学・高校の歴史教育をお受けになった方がどれくらいおいでかは知りませんが、「渡来人」という言葉そのものも朝鮮半島の立場に立つてみると、明らかにおかしい概念であることはお分かりになると思います。朝鮮半島から見れば渡来したのではなく渡って行った。韓国の学会では、まだ定着はしていないようですが渡来人と呼ばれることが「渡倭人」という呼び名をすることがあるそうです。
私が使いますのは、朝鮮半島から日本列島に渡って来た人々とその子孫を「渡来人」という言い方をいたします。
今の言葉では外国から、となるわけですが、日本列島外の朝鮮半島から日本列島に渡って来た渡来人たちがどのような役割を果たしたのか、あるいはどのような歴史をたどったのかをお話するのが今日の主

を往来しているわけです。

朝鮮半島から海を越えて日本列島にやってきた人々を渡来人と言います。反対に日本列島からも朝鮮半島に渡っていた人はいます。

例えば韓国の南端、九州からたかだか二百里弱の釜山の影島に東三洞遺跡という有名な遺跡があって、そこからは縄文土器、弥生土器、つまり日本で作られた土器が発見されています。土器は勝手に移動しませんから、当時の日本列島の人がその土器を持って朝鮮半島の南端まで渡って行ったことがは



つきりと分かる。そういう遺跡は他にもあります。渡来人と言うと朝鮮半島から日本列島へ渡り来た人だけを考へるけれども、反対に日本列島から朝鮮半島へ渡って行った人々も当然いる。つまり、文化はそれぞれに動いている、人もそれぞれ動いているということを考へておかなければなりません。

これは普通皆さまのご覧になる地図を九〇度西に傾けたものです。こんな地図はどこにもないの、手描きをして、その上にパソコンの文字を貼り付けて作った地図です。数年前、富山県がそういう地図を造りまして、これは結構面白いです。富山を中心にして、富山からアジアを見ればどうなるかというところで作られた地図です。この地図から読み取っていただきたいのは日本海を持つ意味です。国境がなかった時代は当然、人々はこの海を渡って自由に移動します。

回貨泉のかたるもの

そのことが具体的に分かる例として、貨泉という貨幣のお話をします。中国の新しい王朝の時代

に造られた貨幣です。いつも私はキホルダーに入れて、こういうお話をする時にご覧いただくのですが、資料の写実は拡大されていて大きく見えますが、現物はこのように直径二センチくらいの大きさです。

この貨幣は造られた時期が非常にはつきりしています。新は中国の中でも短命な王朝で、西暦八年中で三三年までしか続かなかった。貨泉は西暦一四四年から造られ始め、次に成立した後漢王朝が西暦四〇年に次の貨幣を造りました。ですから、大ざっぱにいえば貨泉は、西暦一四四年から四〇年までが通用していた期間ということになります。

京都府北部の海岸に函石浜という遺跡があります。現在の京丹后市久美浜町、お手元の地図では熊野郡久美浜町という行政地名でした。この貨泉がそこから発見されており、何が重要なのかを考へていただきたいのです。

この貨幣は日本製ではなく中国製です。中国の王朝で造られた貨幣が、日本列島の京都の北部海岸地域で発見されているということは、貨幣もこれまた勝手に自分

移動はしませんから、中国の人か、あるいは朝鮮半島の人だったか分かりませんが、この貨幣を持ったアジア大陸の人が日本列島に渡って来ていることをはつきり証明できるわけです。

函石浜遺跡という所は、今は雑木林になっていて、海水浴場がありますが人は住んでいません。この函石浜遺跡には何人も人をご案内して行きましたが、皆さまがなるほどと思ってくださるの、たくさんさんのハングル文字が書かれたペットボトルが漂着していることです。勝手に海流に乗って日本列島に流れ着いているのです。何の意思も持たないペットボトルが、朝鮮半島から自然の海流に乗って日本列島に流れ着くということは、人なら当然船を造る技術も航海する技術もありますから、朝鮮半島から古い時代に人が日本列島にやってきていないはずがないと知ることができるわけです。

日本海が日本列島とそれ以外の地域、アジア大陸と日本とを隔てる国境線となつたのは、ある歴史時代から後のことです。これを我々は

知っておかなければならない。国境ができるまでは、日本海がこちらと向こうとを結ぶ自由の回廊としての役割を果たしていたのです。

貨泉は今から二千年前に造られた貨幣で、日本歴史の時代区分では弥生時代になります。弥生時代に朝鮮半島あるいはアジア大陸から人々が日本海を横断して日本列島にやってきました。人は文化や文明を伴いますから、朝鮮半島、中国大陸の文化や文明を日本にもたらす役割を果たしたことが分かるわけです。

回浦島太郎は誰だったのか

浦島太郎の話を、皆さん子どもの頃に聞かれましたか？ 日本で

幼少期を過ごすとき必ずと言っていいぐらい親から語りかけられる話です。『浦島太郎』という題名で、現在も童話絵本が発行されています。絵本では、浦島太郎が生きた時代は「昔」です。それから場所は「ある海辺」です。名前は「浦島太郎」です。「お母さんと二人で」とあって、お母さんの名前も書いておりません。いつの時代かも、どこかも、お母さんの名前も分からない。「昔々、ある所におじいさんとおばあさんが住んでいました」というフレーズを、存じの方もおいでかと思ひます。「昔々」です。いつとは言っていない。「ある所」です。どことも言っていない。「おじいさんとおばあさん」、名前も年齢も分か

らない。そういう人々を主人公にした話が昔話です。

しかし『浦島太郎』には源流がありまして、『丹後国風土記』という、今から千三百年ほど前の奈良時代に作られた書物です。そこにモデルとなる本来の話が載せられています。「与謝郡日置里」という場所が特定されております。さらに村が「筒川村」と呼ばれていて、名前も「筒川嶋子」と言い伝えていますが、「水江浦嶋子」と呼ばれている。浦嶋子が海に漁に出て五色の亀を釣ったところ亀は乙女に変身した。その龜比売様に連れられて蓬萊山へ行き、夫婦となり楽しく暮らしたが、やがて故郷に帰りたいと言うと、龜比売は玉手箱を渡して「私にもう一度会いたいなら決して開けてはなりません」と言った。

故郷に帰ると様子が変わって知る人は誰もいない。村人に聞くと、昔、浦嶋子という人が漁に出たまま帰らなかった。もう三百年も前のことだと言う。姫が恋しくなつて思わず玉手箱を開けたら、香気が立ち上り空へと消えて行った。浦島は

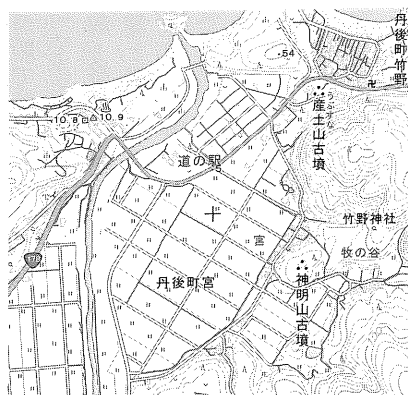
再び姫に会うことはできないと知り悲嘆にくれた、という話です。この話は、『日本書紀』にも採録されており、時は雄略天皇の時代に、丹波國の浦嶋子という人が亀から変身した乙女を妻として蓬萊山に至つたとあります。『日本書紀』という書物は日本の古代史を考へる場合、誰もが扱う文献資料ですが、そこに採用されるほど有名な話だったのです。

では、なぜ有名になつたのか。日本の古代には漁民が難破し漂流して、見も知らない場所に流れ寄せられ、そこで何年か暮らすという話は常時あったことです。気象を見る十分な技術もない漁民にとつては、どのような時に暴風に襲われるか分からない、どこへ吹き寄せられるかも分からない。長い時間の後にやっと故郷へ帰ることができた。すると、故郷の人には見知らぬ姿になつて帰ってきたと見える。海を暮らしの場とする人にとつて、これは切実な話であつたわけです。

浦島太郎の話は、実は十力所ぐらい色々な所にあります。しかし大元は京都の日本海岸です。私は結

丹後国風土記 逸文

丹後國の風土記に曰く、西海の隅に、日置の里あり。此の里に筒川の村あり。此の村に浦嶋子と云ふ漁人あり。昔、ある日、浦嶋子は海に漁に出た。ある時、五色の亀を釣つた。その亀は乙女に変身した。その龜比売様に連れられて蓬萊山へ行き、夫婦となり楽しく暮らしたが、やがて故郷に帰りたいと言うと、龜比売は玉手箱を渡して「私にもう一度会いたいなら決して開けてはなりません」と言った。



北へ日本海に向かって流れ出してお
ります。両側は山です。現在の地
図ではこうですが、元々この農地が
広がっている所は入江でした。この
時代には神明山古墳の築かれたす
ぐ下に海が入り込んでいました。
船という輸送手段はあらゆる時に
頻繁に使われます。古墳が築かれ
た時代にこの入江は港の役割を果
たしていました。全長十数メートル
という船も発見されていて、遠
洋航海とは言えないにしても、かな
りの海洋航海に耐える船が造られ
ておりました。そういう船で多くの
物が人によって運ばれる。その寄る
港がここです。

日本海側にはこういう港がたく

さんありました。京丹後市網野町
という所は竹野の少し西側です。
ここにも銚子山古墳があります。
神明山古墳の北にある竹野が垂仁
天皇が妻にした女性の出身地とな
ります。史実かどうかは分かりま
せんが、『日本書紀』の記述で、日
本海岸のこの地域が天皇に五人も
の妻を出すことができるほどの基盤
を持っていたことが分かるのです。
普通日本では、農業を産業基盤
にした富によって豪族になった人々
が古墳に葬られるケースが多いで
す。しかし、そう考えると神明山
古墳や銚子山古墳の説明がつかま
せん。神明山古墳は全長約二百メ
ートルですから、大阪府堺市の大
仙古墳（仁徳天皇陵古墳）ほどで
はないですが、かなり大きな前方
後円墳です。
古墳は端的に言って豪族の墓で
す。富を蓄積した人物が亡くなる
と、その存在を誇示するために古
墳を造ります。古墳は大きければ
大きいほど葬られている人、正確に
はその人の後継者の権力が大きいこ
とをアピールします。墓には違いあ
りませんが、それ以上に人に見せる

ためのものです。神明山古墳の場
合、入江に入ってくる船からよく見
える場所にわざと造られていること
に注意していただきたいわけです。
銚子山古墳も同じで、これは日
本海岸最大の前方後円墳です。銚
子というのはお酒を入れるとつくり
で、前方後円墳はあの形に似てい
るので、色々な所の古墳が銚子山
と呼ばれます。区別がつかないの
で、頭に地名を付けて「網野銚子
山古墳」と言われています。ここ
らも全長約二百メートル少し。地
図を見ると周りに農地はありませ
ん。眼下の住宅地には元は海が入
り込んでいました。まさに海沿いに
この銚子山古墳も造られている。
東側に離湖（はなうみ）というのがあります。
入江にだんだん砂が堆積して、埋
め立ても行われて陸地になったけれ
ども、この部分だけが入江の一部と
して残ったものです。網野銚子山
古墳が造られた時代には、すぐ南
は入江で多くの船がこの港に出入
りしていました。
日本海岸のたくさん入江が港
湾の役割を果たしました。その港
を拠点に活動して富を蓄積した豪

回「敦賀」の地名の由来

同じく『日本書紀』垂仁天皇の
所に一つのエピソードが書いてあり
ます。垂仁天皇の前天皇の時代
に、額つまりひたいに角が生えた人

局会うことができなかったのです
が、同級生の友人に浦島太郎の子
孫と堂々と名乗る人がいました。
京都府の北部です。浦島太郎の話
は当時の日本を生きた人々の暮ら
しの上で大変重要な、その暮らし
の姿を反映した話でした。だからこ
そ日本中に広がったのです。浦島太
郎の子孫と名乗る人が現れてくる
のは、この話が当時の日本を生きた
人の切実な現実であったからです。
だからこそ長い時代、日本人の暮
らしの中で大きな意味を持つてき
たのです。
海は暮らしの場であり、こちら
も向こうも共に海を暮らしの場と
して現実を生きていた多くの人々が
いたことを暗示するわけです。その
実例として、瀬川清子（二八九五
―一九八四）さんという方が書かれた

この竹島が、領土問題の対象に
なっている竹島かどうかは分かりま
せん。竹が生えているところから呼
ばれた名前ですので、複数あるの
だそうなんです。いっぺん逆風で隠岐島
へ吹き返されて、二日後に一昼夜か
けて朝鮮の竹島に着いたと。朝鮮
の人も天草島（佐賀県）の天草）か
ます。
この竹島が、領土問題の対象に
なっている竹島かどうかは分かりま
せん。竹が生えているところから呼
ばれた名前ですので、複数あるの
だそうなんです。いっぺん逆風で隠岐島
へ吹き返されて、二日後に一昼夜か
けて朝鮮の竹島に着いたと。朝鮮
の人も天草島（佐賀県）の天草）か
ます。

「日清戦争前」と書かれています
から、明治の初めから半ばぐらいで
しょうか。志摩の国崎という所（現
在の三重県鳥羽市）から朝鮮まで
漁に行った人の聞き取りです。瀬
川さんは民俗学者で、漁場の人か
ら取材をされたものです。その時
の話が非常に興味深く、紀伊半島
の南東の島から大きな和船を二隻
連ねて、五〇人ぐらいで朝鮮半島へ
渡ったと。往路、出雲の境（現在
の島根県境港市）を経由していま
す。紀伊半島の南東辺りから船出
して、瀬戸内海を西へ進み、関門
海峡を北へ抜けて東へ回り込んで島
根県の境港に行き、隠岐島へ渡
り、そこから「朝鮮」の「竹島」
という離れ島へ渡ったと書いてあり
ます。
この竹島が、領土問題の対象に
なっている竹島かどうかは分かりま
せん。竹が生えているところから呼
ばれた名前ですので、複数あるの
だそうなんです。いっぺん逆風で隠岐島
へ吹き返されて、二日後に一昼夜か
けて朝鮮の竹島に着いたと。朝鮮
の人も天草島（佐賀県）の天草）か
ます。

回古墳と『日本書紀』の記述

それが果たして事実かどうかは、改
めて確認しなければなりません。
ただ、今日の話の流れでは、『日
本書紀』を使わざるを得ませんの
でご覧いただきますと、垂仁天皇、
これは多分実在はなかったらうと言
われてはいますが、非常に古い時代
の天皇です。その時代に、丹波の
五人の女性の物語が見えていま
す。丹波は後に丹波と丹波に分か
れますがこの「丹波」は分かれる
前で、日本海までを含む京都府の
北側一帯全て、その丹波の国の五人
の女性をこの天皇は妻にします。
日本の古代の天皇は、基本的に一夫
多妻です。
丹波は広いのでこれだけではどこ
の出身か分かりませんが、五人目が
竹野媛とあります。話としては、
この竹野媛だけが醜かったので故郷
に帰されて途中で自殺をしたとい
うのですが、なぜ竹野媛が大事か
かというと、ここから場所が分かるの
です。
現在の国土地理院の地形図を見
ると京丹後市丹波町竹野に神明山
古墳があります。真ん中に水田が
広がっており、その中を川が南から

が船で越国の箭飯浦という所にや
つてきた。越国というのは、後の越
前・越中・越後、さらにそこから加
賀と能登に分かれるのですが、北
陸の日本海岸一帯を言う地域名称
です。その地名を角鹿と名付け
たと。これは今の福井県の敦賀の
ことです。

その人物を尋問したところ、意
富加羅という国の王子で名は都怒
我阿羅斯等だと。意富加羅がどこ
かは確定されていませんが、五世紀
の朝鮮半島南端の金官加羅、現在
の韓国の釜山辺りにあったと想定
される小国です。私は釜山から四
五回対馬を望んだのですが、一度
も見る事ができていません。韓国
の友人に聞いてみると、年に何度か
釜山から対馬が肉眼で見えるそ
うです。距離は五、六〇キロぐら
い。それぐらい日本列島から近
い所です。その国の王子だと言
いました。

最初は穴門に着きました。穴門
とは長門、山口県です。そこから
「嶋浦」に伝いつつ、この表現
が面白いですが、日本海岸を島や
浦に寄り寄りしながら、北海を廻

『続日本紀』宝龜八年正月条（七七七）
○癸酉、使を遣して
渤海使新羅家に問はしめて曰はく、「去りぬる宝龜四年、鳥須那、本蕃
に帰る日、太政官宛分すらく、「渤海の入朝使、今より以後、古例に依
りて大宰府に向ふべし。北路を取りて来ることを得され」といふ。

つて出雲を経て敦賀まで来た。
当時の航海技術と気象を見る知識
では、いったん大風で吹き寄せられ
たりすると避難しなければならな
い。そのための場所が嶋浦で、日本
海側にはたくさんありました。

北海は古い時代の日本海の呼称
です。日本列島の北にあるから北海
と名付けたと思います。日本海航路
と呼びますが、古い時代に存在して
いたことをこの記事は非常によく物
語っています。たとえ作られた話に
しろ、地理的な描写はこの記事を書
いた人の生きた時代に現実にあった
航路を反映しております。

同じく『日本書紀』の欽明天皇
の西暦五七〇年に当たりますが、
それは高句麗と日本との公式の国
交に関する最初の確かな記事で
す。もちろん人の渡来はそれまで
もあるのですが、国家の公式交流
はこの年から始まります。当時の

天皇は泊瀬柴垣宮という所にいま
したが、そこに越の人の江淳臣裙
代という人物が報告してきまし
た。江淳というのは、かつては江沼
郡という郡が存在していました。
現在の石川県小松市辺りで敦賀か
らもう少し北寄りです。

高句麗の使いが日本海の荒波に
苦勞して漂流しながら、やっとたど
り着いたというのです。高句麗国
は朝鮮半島北部の国家ですから、
日本海横断コースをたどってきた
わけです。朝鮮半島の東海岸沿
いを南下するコースも考えられま
すが、おそらくは朝鮮半島から日本
海を横断して一気にやって来たと思
えるほうがよいと思います。根拠は
『続日本紀』七二七年に渤海の使
が出羽国に着いたとある記事です。

高句麗国はやがて滅亡して、そ
の後を受けた王朝が渤海という国
です。意外と忘れられています。

日本と濃密な接触を持った国家で
す。ほぼ高句麗と同じ地域にある
渤海からやってきた人々は、山形県
あるいは秋田県に着いています。当
然、日本海横断を想定しなければ
なりません。

それより五十年後の同じ『続日
本紀』の記述に、渤海から日本へ
来る使節の経路について指示をし
ております。今後は大宰府に向か
えと言われている。要するに日本
正規の外交的窓口である博多湾へ
向かえ。その次には「北路を通
りて来ることを得され」とあります。

つまり日本海横断コースを通って
きてはいかんと。こういう指示命令
を出しております。現実には北の道、
日本海横断コースで日本海岸に着
く渤海国の使節が多かったから、こ
ういう禁止命令を出すわけではな
い。日本海が日本列島とアジア大陸と
を結び付ける回廊の役割を果たし
ていることを、この資料も明白に物
語っております。

回継体天皇は越前で育った

次に継体天皇即位前紀という
『日本書紀』の記事をご紹介します。

す。聖徳太子の一世紀前ぐら
いで日本歴史上ではそう古くもな
い天皇ですが、この継体天皇は、皇
族ではない豪族が天皇になったと最
も疑われる人です。天皇がずっと一
系つまり一つの血縁血統で継承され
てきたかのように思い込んでいた方
もおられるかもしれませんが、この
人物はそうではないことを疑われて
います。

継体天皇は、誉田天皇つまり
応神天皇の五代目の子孫に当た
り、父は彦主人という人物である
と。近江國の高嶋郡の三尾之別
業、現在の滋賀県高島市に当たり
ます。今もそこに三尾という地名
も残っております。その辺りに継体
天皇の父は住んでいた。非常に異
例なことでした。

当時の大王一族（今でいう皇族）
は基本大和の国に居住しますの
で、こゝでわざわざ近江国と書かれ
ています。理由は分かりませんが、
とにかくここにいた。彦主人は振姫
という女性が大変美しいという噂
を聞きつけて、のちに継体天皇の母
になる振姫を妻にしたいということ
で、迎えを三国の坂中井という所

まで派遣します。今は福井県坂井
市で、古くは坂井郡という郡があ
りました。敦賀よりは北の日本海
岸です。そこから妻を迎えて、近
江国で継体天皇は生まれたという
ことになります。

ところが、継体天皇は幼くして
父に死に別れ、母が子どもを連れ
て実家の高向に帰ります。こゝも
福井県坂井市です。そこで継体天
皇は育つわけです。継体天皇が幼
少年期を長く日本海岸の福井県で
育ち成人したことは確かです。

やがて五十七歳になったとき、越
前国から呼ばれて大和王権の王に
就任するといふ極めて異例な状況
が起こります。これもおそらく事
実で、継体天皇は日本海岸を大き
な基盤として天皇になったのです。

当時日本国の政権があった大和
は奈良盆地の東南辺りですが、は
るかに離れた日本海岸の福井県で
成人したこの継体天皇はどうして
即位することができたのか。
それだけの背景、根拠、基盤があ
ったからです。それは日本海の持
つ経済力でしょう。様々な分野で日
本列島の先進的な文化・文明を

積極的に受け入れてきた地域環境
に福井県はあった。これを考えてお
かないと説明がつかえません。

日本列島にとつての日本海岸
は、同時に朝鮮半島と中国大陸と
をつなぐものです。環日本海文化
圏という言い方をしますが、その文
化圏の存在を考える時、今から千
五百年前の日本列島にとつて、日
本海岸は極めて先進的な役割を果
たしてきたことが分かります。現
に天皇をも打ち立てることができ
るほど大きな力を持っていたのです。

今はそういう言い方をしませんが、
かつては「裏日本」という言い
方がされてきました。皆さま方の世
代はあまりご存じないかと思いま
す。何か湿度の高い、「弁当忘れて
も傘忘れるな」というのは日本海
岸の言い草の一つです。弁当はたと
え忘れても傘だけは忘れるなど。

今晴れていても、いつ雨になるか分
からない。そういう暗いじめつとし
た、じとつとした、そういう状況を
語る言葉として「裏日本」という
言葉が長く使われていました。

もちろん適切な表現ではありま
せんから現在では使われなくなっ
てい

ます。しかし古代においては日本海
岸がまさに「表日本」なわけで、
そういう「裏日本」イメージとは
全然違う。日本海岸が日本列島に
とつては海外に窓を開けた、道をつ
ないだ、そういう先進的な文化・
文明の重要地であったことを知っ
ておかなければならないと、私は思
っております。

回鉄刀と鉄剣の銘文

朝鮮半島南端から対馬、対馬か
ら壹岐、壹岐から博多、すでに述べ
ましたように、それぞれ五、六〇キ
ロメートルぐらいいで、天候さえ良
ければ自分の船が行くべき場所を目
視して航海することができるとい
い距離です。常時人々の渡来は
ありました。その大きなビークが量
においても質においても五世紀後
半、今から千五百年前であったこ
とは、事実として分かっております。

熊本県和水町に江田船山古墳が
あります。そこから発見された鉄
刀に銀象嵌で文字が書かれており
ました。「獲加多支國大王」とあり
ます。これは今の学界で異説なく
雄略天皇だろうと考えられていま



稲荷山古墳出土の鉄剣と金象嵌銘

す。その時代に、「典曹人」これは正確には分からないのですが、我々は文官と訳しています。文官として大和にあった政権に仕えていたと。つまり、熊本県から豪族がわざわざ大和にまでやってきて、朝廷に勤務したことが分かるわけです。次の稲荷山古墳は埼玉県行田市にあります。そこから発見された鉄剣の表と裏に金象嵌の銘文があって、やはり「獲加多支鹵大王」の時代に「杖刀人」、これも何か分かりませんが、文字からして武官と訳しています。大和の雄略天皇の政権に出仕していたことが分かって

おります。なぜ雄略天皇の政権だと分かるかというと、鉄剣の表面に「辛亥年」と書いてあります。これは西暦四七一年に当たります。つまり、今から千五百年前の雄略天皇の時代に大和の王権は、東は埼玉県から西は熊本県までを政治的な統治下に治めていたことが分かります。埼玉県、熊本県の豪族を上京させて大和の政権に出仕させるほどの拘束力、支配力を持っていたことが分かるわけです。雄略天皇は一応二代目の天皇ということになっていますが、それま

での天皇は日本列島の広い地域を統治下に入れていたかどうか全く分かりません。天皇は日本国家の頂点に立って、日本列島全部を支配する力を持っていた存在だと何気なく認識されるかと思いますが、この二つの資料が確認されるまでは、全くそういうことも証明できていなかったのです。『日本書紀』には確かに天皇がいて、日本国全体を統治したと書いてあります。しかしそれは書いてあるだけです。事実かどうかとは全く別問題で、別途検討しなければなりません。そこでこの二つの銘文がデータとして参考になるわけです。つまり雄略天皇の時代に、大和の天皇の統治は、少なくとも東は埼玉県、西は熊本県まで及んでいた。つまり日本という国の原型がもう当時出来上がっていたことが証明できるわけです。稲荷山古墳の鉄剣銘は今から五〇年ほど前に発見されたもので、それで初めて大和の大王の統治範囲が分かりました。これより東、おおむね新潟県と福島県より東のほうは、まだおそらくは大和

の政府の統治下に十分には組み入れられていませんでした。この時代に日本には国家と呼ぶにふさわしい組織がようやく出来上がったのです。そして、その時期をつくったのが渡来人です。五世紀の後半という時代に多くの渡来人が日本列島に渡り、多くの先進的な文化、文明を日本にもたらし、それが日本の歴史と文化を前に推し進めた、ということなのです。もし渡来人が渡ってきていなければ、日本列島の歴史と文化の進歩は百年の単位で遅れていた。逆にいえば、百年の単位で渡来人たちは日本列島の歴史と文化を前に推し進めた。そのように考えて間違いではないと、私は思っております。

回 桓武天皇と百済王は親戚

これらは千五百年前のことです。が、それは後々の時代に影響を及ぼし続けて現在に至っています。根拠として分かりやすいのは、『続日本紀』の延暦九年(七九〇)の記述で、桓武天皇が詔を発し、「百済王たちは私の外戚である」と宣言しました。外戚とは母方の実家

です。桓武天皇の父は光仁天皇ですが、母は高野新笠といっています。高野新笠の父が和乙継といつて、百済の武寧王(在位五〇一―五三三)の子孫だと分かっています。

韓国の公州(忠清南道)という町の郊外に武寧王陵、つまり武寧王の墓だと明白に分かっている古墳があつて、そばに公州博物館が建てられています。そこに武寧王の墓から発見された遺物が全て納められていますので、機会があれば一度足を運んでご覧ください。

嫁いできた人は別として、後の日本の皇族は桓武天皇の子孫です。その桓武天皇は、渡来人である百済王が母方の実家である、と自ら宣言しているのです。

二〇〇二年にワールドカップサッカーが日本・韓国共催で行われました。その前年十二月の天皇誕生日に、当時の天皇(現在の上皇)が「私自身としては、桓武天皇の生母が百済の武寧王の子孫であると、『続日本紀』に記されていることに、韓国とのゆかりを感じています。武寧王は日本との関係が深く、この時代以来、日本に五経博士が代々

招聘されるようになりました。また、武寧王の子、聖明王は、日本に仏教を伝えたことで知られております」と発言しました。それは、この記事を根拠にしています。

日本ではあまり注目されなかったのですが、国際的には結構注目されました。日本の天皇は万世一系とは言わないまでも、一つの系譜で続いていると国際的にも考えられていたの、外国ではむしろ注目されました。しかも天皇その人が、自分の先祖には渡来人の血が流れていると宣言したわけです。日本で暮らす我々にとって身近にある天皇も渡来人と深く関わっていることに注意をしておくべきだと思います。

テニスの錦織圭選手をご存じでしょうか。彼がそうであるかは調べてみないと分かりませんが、「錦織」は明白に渡来人の苗字です。錦という高級絹織物を織る技術を日本列島にもたらし、それを世襲的に伝えていた一族が錦織という名字を名乗ったわけです。今でも身近なところに渡来人の名残があることに注意を払ってよいと思います。

回 日本人の三割が渡来系?

それでは渡来人は、一体どのぐらいの人数やつてきたのでしょうか。よく質問されますが、正確な答えの出しようがありません。自然人類学者として卓越した業績を上げられた埴原和郎(一九二七―二〇〇四)さんが計算なさった事例を示します。不確定な要素が多いので、これが正しいかどうかは、はっきりしたところは分からないのですが……

まず日本列島全体の人口初期値を七万五千人ほどとして、人口増加率を年〇・二パーセントと仮定すると、千年後の飛鳥時代には全人口約五四〇万人中四八〇万人が渡来系だという結果です。日本と同じような農業を中心とする国の人口増加率は、世界の例を調べれば分かります。発表された当時、結構話題になりました。日本列島に住む日本民族という言葉方をしますが、純粋な日本人、つまり弥生時代に大量の人口流入が起こる前の縄文系日本人は五、六〇万人で、八、九割が渡来系だという言

い方をされたわけです。

『新撰姓氏録』という平安時代初期に作られた書物があります。当時の日本の氏族を「皇別」と「神別」と「諸蕃」というふうに分けています。諸蕃というのは渡来系の一族です。この書物によると、今から千二百年前には、日本人全体のなかでは三割が渡来系の一族だと認識されていたことが分かります。この数字は現在に至るまでそんなに動いていませんから、日本列島における人口のほぼ三割までは渡来系の人だと資料が示しています。ほぼ事実と考えてよいと思っております。

渡来人と言いますと、圧倒的に大多数の自国人がいて大量の自国文化があつて、一方で少数の外国人がいて少数の外国文化がある、というように認識されるかもしれませんが、その数値の範囲を大きく超えています。もはや渡来人を外国人という現在の言葉で把握し認識することは不可能で、また適切ではないと思っております。

渡来人という存在が、我々が想像するほど特別ではない。長い時

間にわたる日本の歴史を共に形成していき、現在もそうである日本列島のありようを考えた場合、渡来人は日本の歴史と文化に大きな役割を果たし、貢献してきたことを強調したいと思います。

最後に一言だけ、私は京都の高麗美術館の館長をしております。高麗時代から名付けられています。日本で言えば平安時代から南北朝時代ぐらいに当たります。遺物を集めたのは鄭詔文（一九一八〜八九）さんという民間の実業家です。朝鮮半島から略奪同様に持ち出された文化財を買い戻し、北も南もない統一した文化博物館として設立しようというところから生まれたものです。小さい館ですが、ぜひ一度お運びいただければと思います。

答 ヨーロッパは特にそうですが、民族と民族とは対立、抗争、内乱、戦争という形で交わるケースがしばしばあります。征服行動によって国家が新たな王国になることも結構な数あると思います。私は西洋史にはあまり強くありませんが、日本でも騎馬民族征服王朝説という考え方があるのを存じでしょうか。馬に乗ることを習慣にしていた民族が、現在の中国東北地方辺りから朝鮮半島を南下して、さらに日本列島に流れ込んで、日本の朝廷を征服して新王朝を建てたという学説です。日本歴史の学会で認めている人は多くありませんが面白い着想ですね。江上波夫（一九〇六〜二〇〇二）先生という文化勲章まで受賞した民族学者、東洋史学者が提唱しました。

問 西洋古典学の研究でウェルギリウスの『アエネーイス』を読んでいます。トロイア戦争で負けたトロイアの王子が地中海を渡りイタリアの原住民族を征服してローマを建

てる物語です。先住民族があつて文化があつたら平和的な形にはならない場合もあると思いますが、渡来人が日本に来た時に戦争はなかったのかお聞きしたいと思います。

「山城国風土記」逸文
伊奈利社（存疑）
風土記に曰はく、伊奈利と稱ふは、秦（あ）中家（あ）忌寸（あ）等（あ）が遠（あ）つ祖（あ）、伊（い）伯（あ）具（あ）の秦（あ）公（あ）を積（あ）みて富（あ）み裕（あ）ひき。乃（すなは）ち、餅（あ）を用（あ）ひて的（あ）と爲（あ）ししかば、白（あ）き鳥（あ）と化（あ）成（あ）りて飛（あ）び翔（あ）りて山の峯（あ）に居（あ）り、伊（い）奈（あ）利（あ）生（あ）ひき。遂（す）に社（あ）の名（あ）と爲（あ）じき。其（あ）の苗（あ）裔（あ）に至（あ）り、先（あ）の過（あ）を悔（あ）いて、社（あ）の木（あ）を抜（あ）じて、家（あ）に殖（あ）えて福（あ）み祭（あ）りき。今（あ）、其（あ）の木（あ）を殖（あ）えて蘇（あ）きば福（あ）を得（あ）、其（あ）の木（あ）を殖（あ）えて枯（あ）れば福（あ）あらず。

置いた、日本列島外から新たに入り込んだ民族が現在の天皇につながるという説です。日本の天皇が日本人ではないと宣言することになりますので、戦後になって公開されたとき学会に大きなショックを与えました。しかし、他民族が日本列島に入り込んで王朝を打ち立てたという説は、現在のところは否定されております。

れることも多いですが、実は伏見稲荷大社は日本人がつくったものではなく渡来人がつくった。そう資料に書かれています。

京都には多くの在来の人々がいます。渡来人が京都に住み着き、伏見稲荷大社の原型をつくる時に、先住の人々の信仰や暮らしとなぜ衝突しなかったのか。これは日本人の暮らしのありよう、文化や文明と、朝鮮半島からやってきた渡来人たちの持つ文化や文明や暮らしとに、そう大きな差異がなかったからだろうと考える以外に、今のところ回答を見つけることができません。言葉の問題は日常生活の上では三カ月もあれば克服できます。少なくとも渡来人と日本人の間に対立抗争が起こった資料は、一切ありません。そのことを重要視したいと思っております。

問 千五百年の多文化共生から見ると、京都の多文化共生のこれからというテーマで卒業研究を行つていきます。渡来人と当時の日本人の間に衝突が起きなかったことは研究の過程で理解しています。では一九〇

〇年代のオールドカマー、あるいは今ニユーカマーが来ている中で衝突や問題が起きることには、どのような考えを持っていらつしやるのでしょうか。

答 難しい質問ですが、日本列島外の人や文化や文明との関わり方が後の時代にどのように移り変わっていくか。一つ言えることは、国学という江戸時代に成立した学問のありようです。本居宣長が典型的な人物で、さまざまな著作を残しており、優れた歴史的考察、文学的考察を残しています。しかし一方では国粹主義者でありました。国学が江戸時代に徐々に広がり幕末頃に大きく広がります。本居宣長の国粹主義は、中国と朝鮮つまり日本列島外の文化を否定し、排除する考え方でした。日本列島の文化や文明は、日本人の純粋な文化や文明によって担われるべきだという考え方を打ち出します。

その背景には江戸時代の儒学の大繁栄があります。江戸幕府が公的に認めたからそうだったわけですが、儒学は外国の中国の学問で、たしかに日本の学問ではありません

ん。ですから国学の行き着くところは外国排斥になるのです。しかも明治維新は、その国学思想が中心になって担われます。

天皇を唯一の絶対的な存在にしようと思うと、結果として外国排斥になるわけです。国学の流れをくむ国粹主義的な考え方の人々が、多く明治新政府に役人として雇用され、文化政策を立てる中心に座ります。こうして神仏分離令が発せられました。神に対する信仰は日本固有のもの、仏に対する信仰は外来のもの。これを分けてしまえという命令を出します。

江戸時代まで神仏習合といつて神社と寺院はほとんど一体のものと存在していました。例えば、京都府八幡市の石清水八幡宮は神仏習合でしたが、これを分離しろと政府が言うと、結果として仏を排斥してしまふ。元は全山に百近い数のお寺がありました。今は一つもありません。過激な文化大革命が行われ、一番上に神社の部分だけが残つて、お寺は徹底的に壊されてしまったのです。

神社と寺院が完全に分離した形の信仰形態は明治以後にできたものです。私の家もそうですが、仏壇があつて、一方で神棚もありました。それが暮らしの中での日本人の信仰の姿だったのです。政治の世界が関与して、廃仏毀釈という過激な仏教排斥が行われたのです。